



## 第14回図書館総合展に参加して

著者	大上 良樹
雑誌名	関西大学図書館フォーラム = Kansai University Library forum
巻	18
ページ	43-46
発行年	2013-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/8134">http://hdl.handle.net/10112/8134</a>



V3」の特徴や新機能について説明を受けた。

午後からは当日開催された2つのフォーラムに出席した。以下にその内容を報告することとしたい。

## 2 「図書館の業務委託導入は正解であったか」

図書館の委託戦略を4大学と語る

【パネルディスカッション】

講師：中元 誠氏（早稲田大学 図書館事務部長）

大川龍太郎氏（成城大学 図書館運用課長）

堀口 和弘氏（関西大学 図書館事務長）

井上 弓子氏（龍谷大学 図書館事務部課長）

ファシリテーター：奥田 悠子氏

（株式会社キャリアパワー取締役事業本部長）

株式会社キャリアパワーの主催のもと、13：00～14：30の90分間で行われた。フォーラムは事前の予約で満席となっており、キャンセル待ち30名超、当日立ち見希望の方も来られるなど、図書館における業務委託導入に関する関心の高さが伺えた。

初めに、別紙配付資料に基づき、スケジュール紹介が行われた。続いて、開会挨拶があり、第1部の開会となった。以下、スケジュールごとに内容を記載する。

### (1) 第1部

第1部は「受託側から見た委託を取り巻く環境の変化」というテーマで、株式会社キャリアパワー取締役事業本部長奥田悠子氏より、レジメに基づき、以下の3つの項目について解説があった。

ア 17年前、図書館業務委託導入時の状況

イ 競争原理と弊社の考え方

ウ 業務委託におけるコンプライアンス

- 非正規社員の実態
- 有期契約終了時対応の考え方
- 派遣法との関連
- 適正な委託運営のために

アでは、まず、京都の総合大学で人材派遣を始めた経緯の説明があった。きっかけは、利用者からの開館時間の延長要望で、コストを抑えながらいかに利用者の要望に応じていくか課題であった中、図書館は専門業務が多く過去から人事異動が難しい部署であり、定年退職を迎える人が増えてきた現状であった。そのため、このままでは専門的な業務を継承

していくことが困難であるという結論となり、委託導入に踏み切ったとのことである。

イでは、キャリアパワー以外にも参入する企業が増え、委託料の値崩れが起こったため、コスト削減のための委託料金を見直す取り組みを行ったと説明があった。キャリアパワーでは、スタッフを安定させることに重点をおいており、そのため、「研修メニュー」を準備しているのはもちろん、「コース選択」、「評価制度」についても、設けている。

さらに、長期的な視点から、Win Win Winの関係を築くこと（これを解説では、「三方よし」と説明されていた。三方＝就業者〔スタッフ〕、委託先〔大学図書館〕、受託企業〔キャリアパワー〕）をモットーにしているとの説明があった。これは、本学での業務委託の方々を見ていると感じる部分であり、「人」を大事にしていることが非常に伝わる内容であった。

ウでは、2012年10月に改正された「派遣法」、2013年4月から施行される「改正労働契約法」に関して触れられたあと、キャリアパワーが委託のProfessionalとして、①図書館の専門知識、②労務管理能力、③委託運営の経験と実績、④労働問題、法的な知識、の4点を武器とし、今後の委託業務に取り組んでいくとの説明があり、第1部は終了となった。

### (2) 第2部

第2部は、「図書館の委託戦略を4大学と語る」というテーマで、早稲田大学図書館事務部長中元誠氏、成城大学図書館運用課長大川龍太郎氏、関西大学図書館事務長堀口和弘氏、龍谷大学図書館事務部課長井上弓子氏の4名の講師と、第1部の解説をされた奥田氏をファシリテーターとしてパネルディスカッションが行われた。

まず、初めに、早稲田大学中元氏より、キャリアパワーが図書館へ人材派遣を始めてからの今日に至るまでの17年間で大学がどのように変わったか、大学の数、専任職員数の数の変化について触れられた。

○大学数の変化

年/大学種別	国立	公立	私立
1997年	98	57	431
2011年	86	81	602

○専任職員（平均数）の変化

年 / 大学種別	国立	公立	私立
1997年	24	9	13
2012年	20	4	6

大学の数は17年間で1.3倍増加しているが、2012年の時点で、私立大学の定員割れの割合は45.8%になっている。専任職員数で見ると、国立は善戦しているが、公立と私立では、半減以下となっている。こういった状況の中で図書館サービスをどのように考えていくかが問題となるが、図書館サービスというものは、人が減ったからといってサービスの縮小はできない業務である。専任職員が減少していく中、一つのやり方として業務委託を行うことが考えられたとの説明があった。

次に、実際の業務委託を導入している3大学の導入経緯と委託範囲について、成城大学大川氏、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏の順に説明があった。ここでは、本学関大の説明内容について私がメモしてきた内容を記載する。

- 1998年12月、夜間学生からの開館時間の延長要望に始まり、2000年4月には祝日開館、フロアごとの開館時間の一本化を行った。
- 図書館のめざすべき方向として、ビジョン7項目を策定
- 委託範囲は、カウンター、書庫、ガイダンス、盗難巡回、相互利用、装備目録、他キャンパス（高槻、高槻ミューズ、堺）の図書館（室）の運営
- 汎用機からUNIXへ切り替えたことで納品から配架までのスピードアップを実現
- 1990年代前半は新人職員が2～3名配属されていたが、人事方針転換により、ここ数年は他部署への異動者が増加している。

続いて、委託によって専任職員のコア業務がどう変化したか、カウンター業務やレファレンス業務等、ほぼ全面委託を行っている関西大学と龍谷大学の現状について、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏から説明があり、それを受け、成城大学大川氏より、関西大学と龍谷大学の現状を聞いた感想が述べられた後、今後全面委託を検討していくうえでの課題等について説明があった。

最後に、早稲田大学中元氏より、図書館のコア業務、新たな専任職員の役割について、意見が述べられている中、終了予定時間が来てしまいディスカッションは終了となった。

このパネルディスカッションでは、本学の業務委託導入事例や図書館における専任職員の業務の変化について学ぶことができたのは勿論のこと、他大学の導入の現状、大学図書館業界において、フロントランナーの一角を担う早稲田大学図書館事務部長の考えをライブで聞くことができたのは、貴重な機会であった。

### 3 EBSCO Discovery Service～ユーザーによる報告と最新情報～

EBSCO社主催のもと、15:30～17:00の90分間で行われた。当日の内容は以下のとおり。

#### ■開会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

#### ■EDSユーザーによる講演

- 立命館大学 安東 正玄氏
- 福井大学 久保 智靖氏
- 大阪大学 坂本 祐一氏
- 質疑応答、ディスカッション

#### 【共通トピック】

- EDSに期待したこと  
(図書館運営上の効果、教育/研究への寄与等)
- 導入までのプロセス  
(予算・技術・時間の観点から)
- 導入後の効果
- 今後の期待

#### ■EBSCO社プレゼンテーション

- EBSCO International Inc. 古永 誠氏

#### 【トピック】

- 海外の事例紹介（導入実績、運用事例、導入後の効果等）
- 最近のニュースと今後の予定（新コンテンツ、新機能の紹介）

#### ■閉会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

このフォーラムについては、EDSユーザーによる講演を聞き、今後の業務に生かせると自分自身が感じた点について、各大学の講演ごとに記載する。

#### (1) EBSCO Discovery Service導入とその後

講演者：立命館大学 図書館サービス課

安東 正玄氏

ア 導入を判断した背景（主なものを記載）

【外的要因】

- 大学図書館の役割の変化（管理中心から利用中心へ：ラーニングコモンズ）
- 大学を取り巻く環境変化  
→競争の激化、教育の質向上

【内的要因】

- OPAC 中心からの卒業
  - Google 的なサービスの提供
- ⇒導入に関して、外的要因、内的要因それぞれの視点から分析されている。

イ 経過（概略）

年	内容
2009年4月	次期システムに向けてゼロから情報収集
2010年5月	構想案を部内で調整（Discovery Service 前提）
2010年10月	次期図書館システム開発方針、仕様書確定
2010年12月	学内コンセンサス
2011年1月	Summon 日本語対応報道、EBSCO 来校（日本語対応完了）
2011年2月	財務部門との交渉開始
2011年9月	予算「枠」確定
2011年10月	EBSCO Discovery Service 決定
2012年1月	OPAC との連携調整スタート
2012年3月末	新図書館システムスタート
2012年6月末	Discovery Service 正式スタート

⇒情報収集から Discovery Service スタートに辿り着くまでのプロセスは、EDS 導入に限らず、本学での様々なサービス導入を考える際にも、有用なものと思われる。

(2) 福井大学における EDS の設計

講演者：福井大学附属図書館 久保 智靖氏

【EDS の導入のコンセプト】

- アンケート調査 1  
図書館の利用目的（総合図書館）
- アンケート調査 2  
総合図書館でのデータベース利用
- DB の購入金額

⇒サービス導入に際し、アンケート調査を行い利

用者のニーズを把握している。また、導入の理由が「DB 購入金額の高騰に対する抑止策として」と明確な点は、参考にすべきであろう。

(3) ディスカバリーサービスの導入

— 一大阪大学の場合 —

講演者：大阪大学附属図書館

学術情報整備室 坂本 祐一氏

ア なぜ EDS 導入を検討したか

- 契約電子コンテンツの利用促進
- 最良のアクセスの提供
- 学生の電子コンテンツ利用を増やしたい

イ EDS を選定した理由

- 本学に必要な電子コンテンツが他社製品より搭載されている
  - 検索対象を限定する設定が可能
- ⇒アのサービス導入を検討した目的が明確であること、イのディスカバリーサービス導入にあたり、複数の候補の中から、なぜ EBSCO 社の製品を選択したかというように理由が明瞭な点は参考にてできると思われる。

4 最後に

今回の研修（イベント）に参加し私が最も感じたことは、情報の取捨選択と視野の拡大に関する重要性である。

日々新たなサービスが提供される環境は進化し、多くの情報が配信されている。今、本学図書館に足りないものは何か、何が求められているか利用者のニーズを把握し、そのうえで、多種多様な情報の中から必要なものを選択する能力が求められている。その能力向上の一環として、このような研修の機会を活用し、視野を広げることが肝要であると思う。日々の業務から離れ、研修を通じて得るものは思いの外大きいものがあると感じる。これからの図書館を担う人材となる後輩の職員にも、ぜひ参加をすすめたい研修（イベント）であった。

以上

（おおがみ よしき 図書館事務室）